



←  
写真12  
から

黒松内P<sub>1</sub> (泥岩)

写真13

13

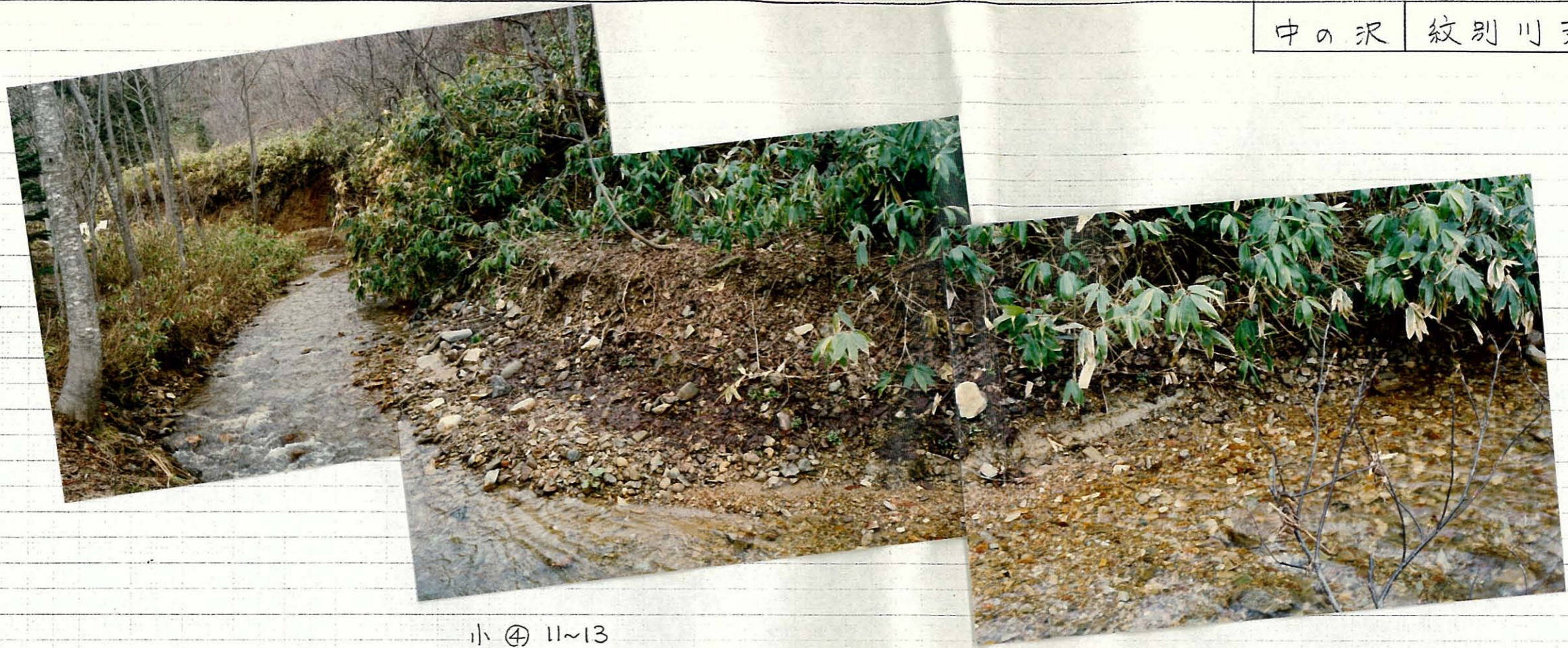


←  
写真15A

黒松内P<sub>1</sub> (泥岩)

写真14

14



← 写真14

小④ 11~13

写真15

扇状地堆積物



← 写真17

小④ 14, 16~18

写真16

扇状地堆積物



小④ 19~21  
24~25

写真17 ←  
号至16カ3

扇状地堆積物



←  
写真19A

小④ 29~32

写真18

扇状地堆積物



小⑤ 9~15

扇状地堆積物

写真18 ←

写真 19



小⑤ 19~21

扇状地堆積物 (上写真の対岸(右岸)の状況)

写真 20

21



小⑥ 3~8

扇状地  
堆積物

呈松内P,  
→

呈松内P, (砂岩)

写真21



小⑥ 9~12

扇状地堆積物

写真22

22



小④13~16

扇状地堆積物 (写真22の対岸(右岸側))

写真23



小④17~18

扇状地堆積物 (写真22の対岸(右岸側))

写真24

24

23



小⑥ 22~24

黒松内P<sub>1</sub> (泥岩・凝灰岩互層)

写真 25



小⑥ 19~21

黒松内P<sub>1</sub> (泥岩・凝灰岩互層)

写真 26

泊発電所(1, 2号炉)

L-9 リニアメントについて

昭和59年5月16日

## 1. L-9リニアメント

### イ. 空中写真判読結果

空中写真判読によると、このリニアメントは余市川左岸の山地と低地の境界に位置するもので、明瞭度I、長さ4kmの屈曲の多いものである。「日本の活断層」では当該箇所にはリニアメントを記載していない。リニアメントの位置を第1図に示す。

### ロ. 地表地質踏査の結果

L-9リニアメント周辺の地質図を第2図に示す。

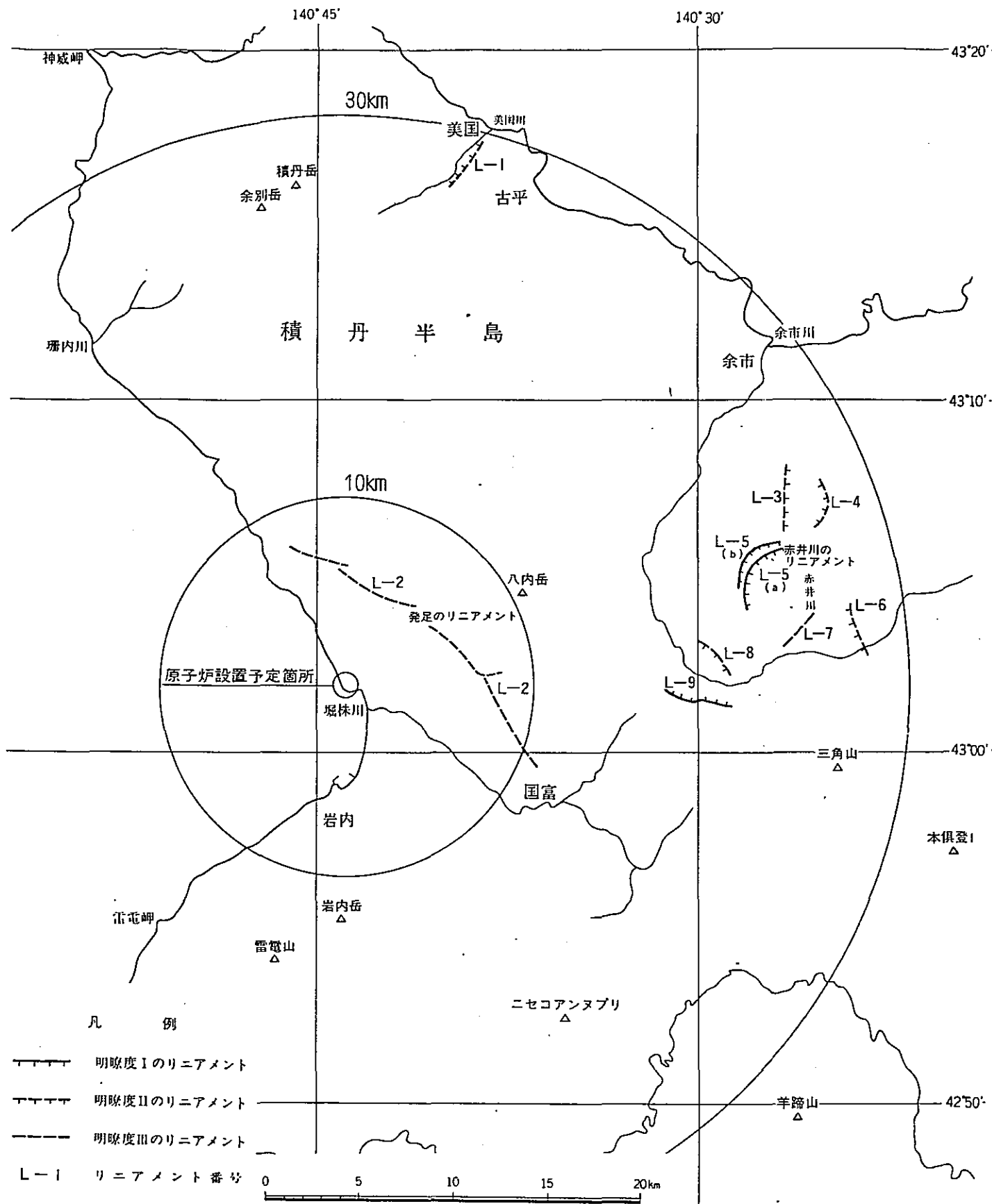
リニアメントの山地側には、新第三紀中新世の首平累層の安山岩質角礫岩が広く分布するほか、崖錐堆積物が分布している。また低地には、段丘堆積物及び湖成堆積物等の第四紀堆積物が分布している。

リニアメントを横断する岩盤露頭はなかったが、リニアメント付近で認められた2箇所の断層は、リニアメントと走向を異にし露頭内で連続性が認められなくなる小規模なものであり、リニアメントに相当する断層とは考えられない。

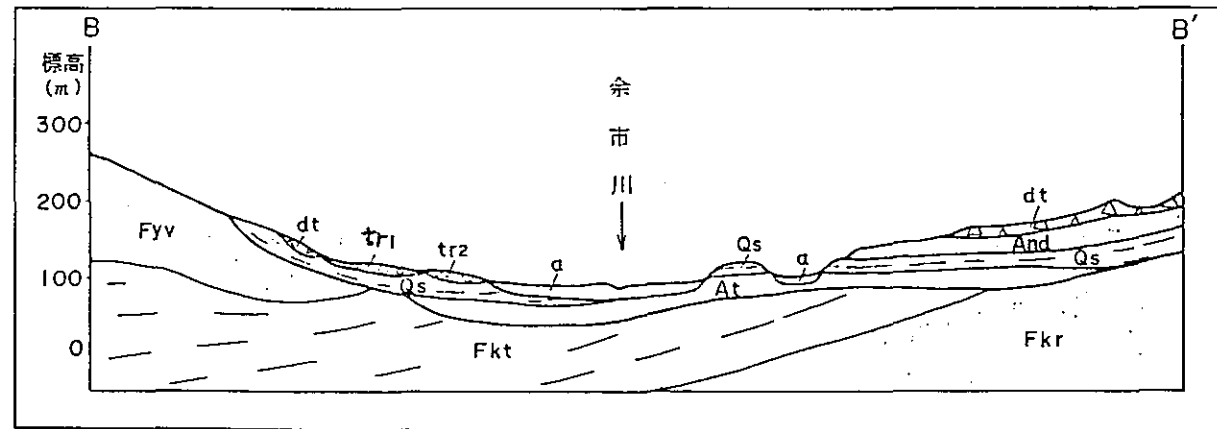
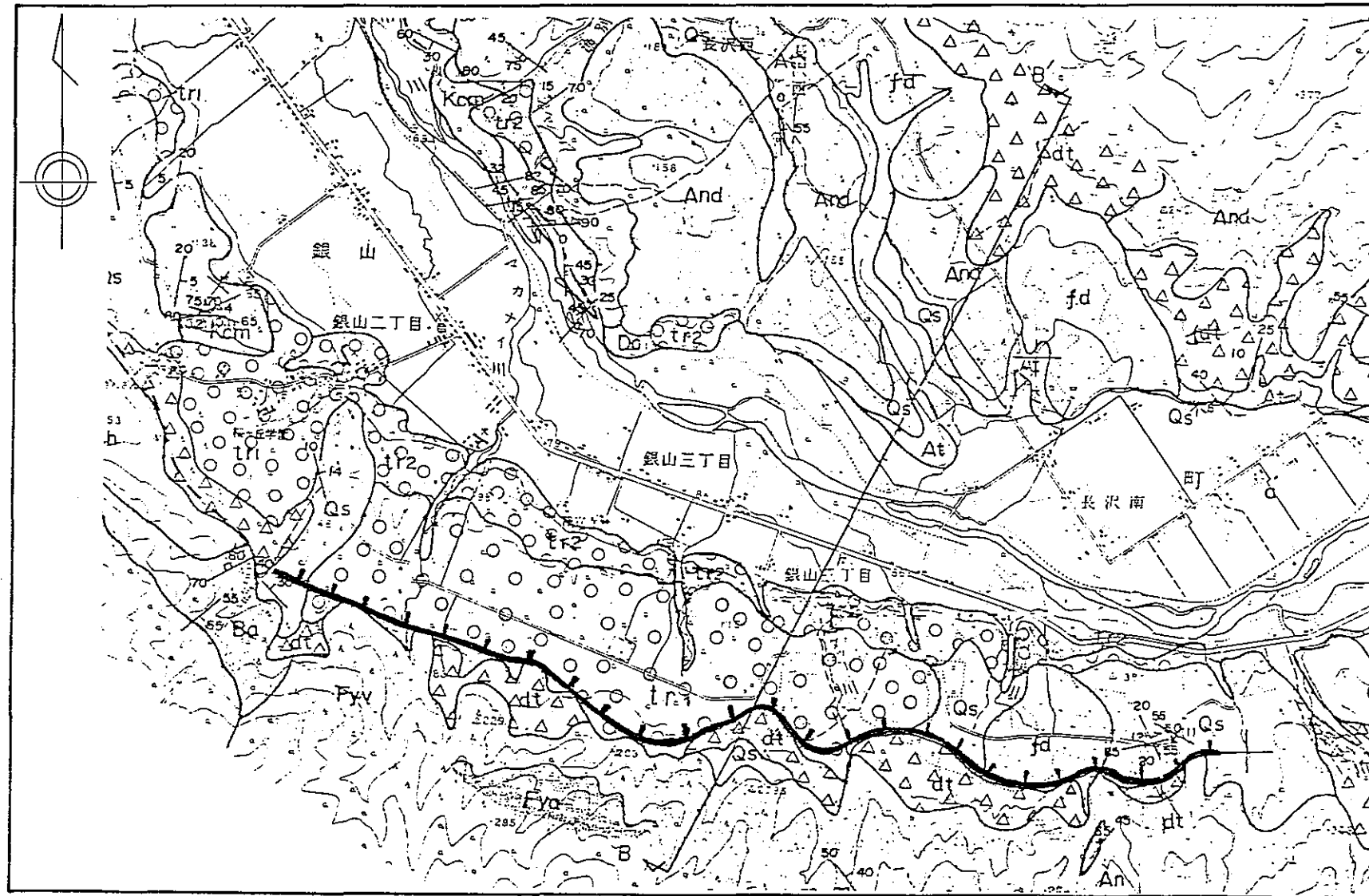
また、リニアメント付近の地形面には最近の断層運動によると考えられる変位地形は認められない。

### ハ. 評 価

リニアメントは旧余市川の侵食に伴う傾斜変異部を反映したものと考えられる。



第1図 敷地周辺のリエアメント分布図



時代	地層名	記号及び色調	主な岩相(層相)	
第四紀 新世	岩層堆積層	dt	礫・砂・粘土	
	沖積層	a	礫・砂・粘土	
	段丘堆積層(2)	tr2	礫・砂・粘土	
	扇状地堆積層	fd	礫・砂・粘土	
	火山灰層	Qa	軽石混り火山灰	
	段丘堆積層(1)	tr1	礫・砂・粘土	
	安山岩層	And	安山岩	
	砂礫・シルト層	Qs	シルト岩・砂岩・礫岩	
	赤井川火山噴出物	At	軽石・凝灰岩・火山角礫岩	
	石炭安山岩層	Dc	石炭安山岩・同質火山角礫岩	
第三紀 新世	安山岩層	Ka	安山岩・同質火山角礫岩	
	安山岩質火山角礫岩層	Kv	火山角礫岩・凝灰角礫岩・凝灰岩	
	安山岩質火山灰層	Kct	安山岩質火山灰凝灰岩	
	砂岩泥岩層	Kcm	砂質泥岩・砂岩・凝灰質凝灰岩	
	第三紀 古新世	小沢層	Fo	流紋岩質凝灰岩
		大和層	Fya	安山岩
		大和層	Fyv	安山岩質火山角礫岩・凝灰角礫岩
		國富層	Fkr	流紋岩
		國富層	Fkt	流紋岩質凝灰岩
		然別川層	Hmsh	頁岩
第三紀 白垩世	然別川層	Hmt	安山岩・同質火山岩質凝灰岩・凝灰角礫岩	
	然別川層	Hlc	凝灰岩	
	貫入岩類	Rh	流紋岩	
	貫入岩類	An	安山岩	
第三紀 白垩世	貫入岩類	Ba	斑岩	

- 30° 60° 地層の走向・傾斜
- 30° 60° 断層の走向・傾斜 (正・逆)
- 30° 60° 節理・亀裂の走向・傾斜
- 30° 60° 流線の走向・傾斜
- 30° 60° 貫入岩の貫入面の走向・傾斜
- (整合) } 地質境界線
- (不整合) }

断層 (確認)(推定)(伏在)